

面談し、苦しみを和らげる ～ 思いやる心と包容力 ～

2025 年 10 月 6 日 順天堂大学院医学研究科博士課程 Unit2『腫瘍医学』の講義【『がん研究の歴史』キーワード：山極勝三郎(1863-1930)・吉田富三(1903-1973)・Knudson(1922-2016)】の講義に赴いた。アフリカのコンゴ、中国からの留学生も出席されていた。多数の質問も寄せられた。大いに感動した。

【『癌細胞の形態 1)構造異型：細胞の配列や極性の消失などの組織構築の異常 2)細胞異型：細胞や核の大きさ。形、染色性。クロマチン構造などの形態学的異常』&『血行性転移 1)『解剖学説』2)『種子と畑説』& 発がんの連盟的首位性 - Genotype, Phenotype, Dramatype 初期条件がある範囲にあると、初期の変異が経時的变化とともに 分子の相互作用によって、様々に拡大し、将来予測が不可能になる。これは初期のわずかな変異で大きな効果が出ることを意味する。非平衡状態にあり外部と相互作用する開かれた複雑系では、初期状態(Genotype)が同じでも、外部から、意識的に適時に介入すれば、ある特異点(Phenotype)で分岐し多様性のある制御(Dramatype)が可能になるはずである。病気はDramatype なる故に、予防、治療が成立する。】と語った。

また、【環境発がん：1775 年イギリスの外科医 Percivall Pott(1714-1788)の煙突掃除夫の陰嚢がんの報告/ Virchow(1821-1902)の刺激説/ 山極勝三郎(1915 年人工発がん成功)/ 吉田富三(1932 年肝がん創生) 私は、クボタショックの 2005 年、順天堂大学で『アスベスト・中皮腫 外来』を開設する機会が与えられた。そして、2008 年、順天堂大学で『がん哲学外来＝患者さんや そのご家族と面談し、苦しみを和らげる』が開設された。『がん哲学外来』は、『“がん”も単なる個性 ～ 患者さんに寄り添い、対話を ～』を実践し、『相手を思いやる心』&『患者に対する慈愛の心』の姿勢を貫いて『純度の高い専門性と社会的包容力 ～ 病気であっても、病人ではない ～』社会構築を目指すものである。】と述べた。

『真理は円形にあらず、楕円形である。一個の中心の周囲に描かるべきものにあらずして、二個の中心の周囲に描かるべきものである。人は何事によらず 円満と称して円形を要求するが、天然は人の要求に応ぜずして 楕円形を採るはふしぎである。』(内村鑑三:1861-1930)。(画像)



# 楢円形のこころ

がん哲学エッセンス

樋野興夫



【2018年度 朝日がん大賞 長興又郎賞 受賞】

個性を活かして  
病気であっても病人でない  
生活のために

明るく前向きに生きる考え方と  
温かな言葉で病理医が贈る心のメッセージ

春秋社 定価(本体1500円+税)

